



学びのページ

三聖地巡拝って何?

今年八月、第四十回青年部三聖地巡拝鍊成が開催されました。青年部の仲間たちと道中を過ごし、たくさんの思い出ができることがあります。

しかし、「楽しかった」だけで終わってしまうのはもったいない。そのくらい「三聖地」にはたくさんの学びがつまっています。

そもそも三聖地巡拝とは、三重県の伊勢神宮、奈良県の橿原神宮、京都の御寺泉涌寺の三つの聖地を巡ってお参りをさせていただく解説会の大行事の一つであり、毎年四月一日から三日かけて行われています。

第一回巡拝が行われたのは、昭和十六年。その前年は神武天皇の即位から二六〇〇年を数える記念の年にあたり、解説会では太陽精神碑が建立され、建国以来の先人の労苦を偲び、日本の伝統精神を發揮する大さが伝えられました。そんな時代に三聖地巡拝はスタートを切り、以来一度も途切れることなく続けられ、今四年には第八十四回を迎えた。ちなみに青年部三聖地巡拝鍊成は、真夏の暑い盛りに団体行動を取る中で心身を鍛えることで青少年の健全育成を図ることを目的に、昭和四十一年に始まりました。一時中断した期間もありましたが、現在は一年に一度、開催されています。

金剛さまは三聖地を「どんなことが起こるとも、解脱会員がいつまでも守つていかなければならぬ大切な聖地」とされ、戦中戦後の厳しい時代においても不斷の決意で挙げられていました。

◎三聖地の思い出やどんなイメージがあるか、みんなで話し合ってみましょう。

なぜ、こんなにも大切にされたのか。三聖地には「生命」「生活」「国」という人間に無くてはならないものの根本があります。これまで、共存共栄を願つて國を繁栄させてきた御皇室はじめ先人たちの祈りがこめられています。そこで生かされていることに感謝し、その精神を継承して社会に役立つ人間となることを誓うのが三聖地巡拝です。お捧げする感謝に「国恩感謝」と記すのは、そのためです。

今夏の青年部三聖地巡拝鍊成をより充実したものにするために、これから毎月学びを深めていきましょう。